

第4章 調査結果の分析

1 分析全体の概要

(1) 目的

本県では、平成23年度から令和2年度までの10年間、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅、災害公営住宅入居者、約24万件を対象に健康調査を実施してきた。調査結果を活用し、フォローが必要な住民に対しては、市町村が県や関係機関と連携して個別にフォローアップしており、入居者の健康状態を把握する上で一定の成果を得ている。また、各年度においても、調査結果全体の集計については、調査項目ごとに単純集計を実施してきた。

この度、報告書作成にあたり、これまでの10年間の健康調査結果を用い、①住宅種別(プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等、災害公営住宅)ごとの健康状態の経年変化、②転居による影響、③健康状態に影響するリスク因子の3点について分析を行ったもの。

(2) 分析対象

平成23年度から令和2年度までの10年間、県の健康調査に回答した112,798世帯の240,358件(有効回答数)の調査結果データ

(3) 分析方法

健康調査の回答者は、年度ごと、住宅ごとに年齢や性別等の構成が異なるため、年度ごとの単純集計の比較では、正しい結果は得られない。このため、入居者の健康状態の年度ごとの変化や健康状態と回答者の属性及びリスク因子の関連性について、年齢や性別等の個人の属性による影響をできるだけ排除し統計的に調整をする必要がある。これらの分析方法は、専門的な技術(統計ソフト)と知識が必要なため、分析作業は東北大学大学院歯学研究科に委託した。

分析では、各年度の回答者の年齢・性別・世帯人数・疾患の有無・無職かどうか等の構成の違いによる偏りの影響を排除するように処理を行い、分析を行った。

(4) 分析内容

1 住宅種別(プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等、災害公営住宅)ごとの健康状態の経年変化

以下の①、②の処理を行ったうえで、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等、災害公営住宅ごとに年度ごとの健康状態の経年変化を比較した。

① 複数回調査に回答している人の値については、1つ1つの値が相関性のある値となってしまうため、同一個人の回答を識別し相関性の影響を排除している。

② 年度ごとに回答者の年齢や性別の構成が異なるため、年齢について年齢構成の違いによる偏りの影響を排除するように処理している。性別についても同様に処理を行っている。

2 転居による影響

東日本大震災では、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等から災害公営住宅への転居など、転居を経験された方が多くおり、災害公営住宅への転居が被災者の健康状態に影響があったのかを把握するため、年齢、性別、世帯人数、疾患の有無、無職かどうかの影響を排除し、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等入居者の経年的な健康状態の変化(転居前の経年的な健康状態の変化)と災害公営住宅入居者の経年的な健康状態の変化(転居後の経年的な健康状態の変化)について、転居前の1年あたりの変化率と転居後の1年あたりの変化率を比較し、転居の影響を分析したもの。

3 健康状態に影響するリスク因子

健康状態を示す項目と回答者の属性及びリスク因子との関連が大きい項目を把握するために、健康調査の質問項目のうち、健康状態を示す項目と回答者の属性及びリスク因子との関連について、他の属性及びリスク因子が同じ状況でどれくらいリスクが大きくなるかを分析したもの。

(5) 考察

健康状態に関連が大きい項目として、特に「相談相手」や「体を動かす機会の減少」が挙げられることから、相談できる人がいる環境づくりを進めることや、体を動かすきっかけとして住居から外に出て、行事参加の場や機会を提供するなどのソーシャルサポートの取組を進めることが大切である。これらにより、人とのつながりを得ることで、ストレスを予防したり緩和したりする効果が期待され、入居者の健康状態の維持・増進に繋がると考えられる。

また、転居によって、「心の問題(K6が13点以上)」、「行事への参加がない人」の項目が改善するなど、災害公営住宅への転居が入居者にプラスに働いていると推測される。

新たな入居先においても、心理的・社会的サポートをはじめとするソフト面での支援について、継続して取組んでいくことが大切だと思われる。

(参考)調査票様式

1人目記入欄					
1 氏名(性別)・生年月日(年齢)		2 世帯主・世帯主からみた続柄		3 職業	
フリガナ		①世帯主	①会社員	⑥漁業	4 過去1年間に健診(学校、職場、市町村等で実施する健診)を受けましたか。 ①受けた ②受けていない ③分からない 19歳以上の方がお答えください。
氏名		②配偶者	②公務員	⑦主婦	
性別	①男性 ②女性	③子	③自営業	⑧学生	
生年月日	大正・昭和・平成____年 ____月____日	④子の配偶者	④パート・アルバイト	⑨無職	
年齢	満____歳(11月1日現在)	⑤孫	⑤農業	⑩その他 ()	
		⑥父母	あてはまる項目に○をつけてください。 ①求職中 ②病気療養中 ③その他		
		⑦その他 ()			
6 病気はありますか。 ①ある ②ない ③ お進みください。			7 こころの問題についてお聞きします。 過去30日間に、どれくらいの頻度で下記のことがありましたか。 全ての項目のあてはまるところに○をつけてください。 ない場合は、「全くない」に○をつけてください。		
「①ある」と回答した方は、病名に○をつけてください。			18歳以上の方がお答えください。		
病名 → Oをつけた病気について治療の状況にOをつけてください。			項目 \ 頻度		
			全くない 少しだけある 時々ある たいていある いつもある		
① 糖尿病	→ 治療済・治療中・治療中断	神経過敏に感じる 絶望的だと感じる そわそわ、落ち着かなく感じる 気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れない感じがする 何をするのも骨折れだと感じる			
② 高血圧	→ 治療済・治療中・治療中断				
③ がん	→ 治療済・治療中・治療中断				
④ 心疾患	→ 治療済・治療中・治療中断				
⑤ 脳血管疾患	→ 治療済・治療中・治療中断				
⑥ 呼吸器疾患	→ 治療済・治療中・治療中断				
⑦ 精神疾患	→ 治療済・治療中・治療中断				
⑧ 透析	→ 治療済・治療中・治療中断				
⑨ その他 ()	→ 治療済・治療中・治療中断				
「治療中断」されている場合、その主な理由は何ですか。 ① 主治医の指示 ② 自己判断 ③ その他()			自分は価値のない人間だと思う		
8 現在の状況について、①～⑤に当てはまるものがある場合には、番号に○をつけてください。 体重の増減があった場合にはその量についても記載してください。		9 次のような飲酒の習慣はありますか。 (当てはまる全てに○をつけてください)		10 現在の住宅への転居前に比べて、日頃の生活で体を動かす機会はどうなりましたか。	
① 眠れない	① 朝または昼から飲酒することがある ② 週4日以上かつ1日3合以上飲酒する * 3合目安: 以下のいずれか。 清酒3合、ビール中瓶500ml×3本、焼酎(25度)330ml、ワイン100ml×6杯	① とても少なくなった	11 自治会や集会所で開催される行事への参加等、地域との交流の場へ参加していますか。		
② 何かのきっかけで、災害を思い出して 気持ちが動揺することがある		② 少なくなった	① 参加している ② 参加していない		
③ 食欲がない		③ 変化なし(もともと少なかった)	12 悩みなどを相談できる相手がいますか。		
④ 1年前に比べて、体重が減少した (kg減) * 健康のために意識的に減らした場合は除く		④ 変化なし(よく動いている)			① いる ② いない
⑤ 1年前に比べて、体重が増加した (kg増) * 成長期による体重の増加は除く			⑤ 増えた	① いいえ ② 要支援1 ③ 要支援2 ④ 要介護1 ⑤ 要介護2 ⑥ 要介護3 ⑦ 要介護4 ⑧ 要介護5 * サービス利用の有無 ① 有り ② 無し	
			① いいえ ② 身体____級 ③ 療育 A・B ④ 精神____級 * サービス利用の有無 ① 有り ② 無し		
調査への御協力ありがとうございました。再度、記入漏れがないかご確認ください。 ご家族があられる方はご家族へお渡しいたき、次のページへの記入をお願いします。					

1 分析の概要

(1) 目的

プレハブ仮設住宅, 民間賃貸借上住宅等, 災害公営住宅ぐとの入居者の健康状態の年度ぐとの経年変化を把握するため分析を行った。

(2) 分析対象

平成23年度から令和2年度までの10年間, 県の健康調査に回答をした, 112,798世帯の240,358件(有効回答数)の調査結果データ

※平成30年度のプレハブ仮設住宅及び民間賃貸住宅等入居者健康調査結果は, 回答者数の減少により, 設問によっては個人が特定される可能性があることから詳細な調査結果は公表しておらず, 経年分析からは除外している。

(3) 分析方法

健康調査の回答者は, 年度ぐとに年齢・性別の構成が異なるため, 年度ぐとの単純集計の比較では入居者の健康状態の変化を比較することができない。

そこで, 以下の①, ②の処理を行ったうえで, プレハブ仮設住宅, 民間賃貸借上住宅等, 災害公営住宅ぐとに年度ぐとの健康状態の経年変化を比較した。

①複数回調査に回答している人の値については, 1つ1つの値が相関性のある値となってしまうため, 同個人の回答を識別し相関性の影響を排除している。

②年度ぐとに回答者の年齢や性別の構成が異なるため, 年齢について年齢構成の違いによる偏りの影響を排除するように処理している。性別についても同様に処理を行っている。

(4) 分析結果の要点

①「K6が13点以上」の人の割合は, 民間賃貸借上住宅等で経年的に減少している。

(民間賃貸借上住宅等(n=42,969) H23:9.8% \ H29:6.2%)

②「災害を思い出して気持ちが動揺することがある」人の割合は, 経年的に減少している。

(災害公営住宅(n=17,131) H27:18.5% \ R2:12.4%)

③「週4日以上かつ1日3合以上飲酒する(多量飲酒)」の人の割合は, 災害公営住宅で経年的に減少している。

(災害公営住宅(n=17,131) H27:9.0% \ R2:6.9%)

④「体を動かす機会が減少している」人の割合は, プレハブ仮設住宅及び民間賃貸借上住宅等で経年的に減少している。

(プレハブ仮設住宅 (n=25,028) H24:54.6% \ H29:45.9%)

⑤「相談相手がいる」人の割合は, 民間賃貸借上住宅等で経年的に増加している。

(民間賃貸借上住宅等(n=44,418) H23:78.7% / H29:83.2%)

2 分析結果

(1) 体調が悪いと感じている

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が22.0%，平成29年度は22.2%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は23.4%，平成29年度は18.6%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は25.4%，平成30年度は22.9%，令和2年度は23.7%であった。
- ◎民間賃貸借上住宅等では減少傾向がみられた。

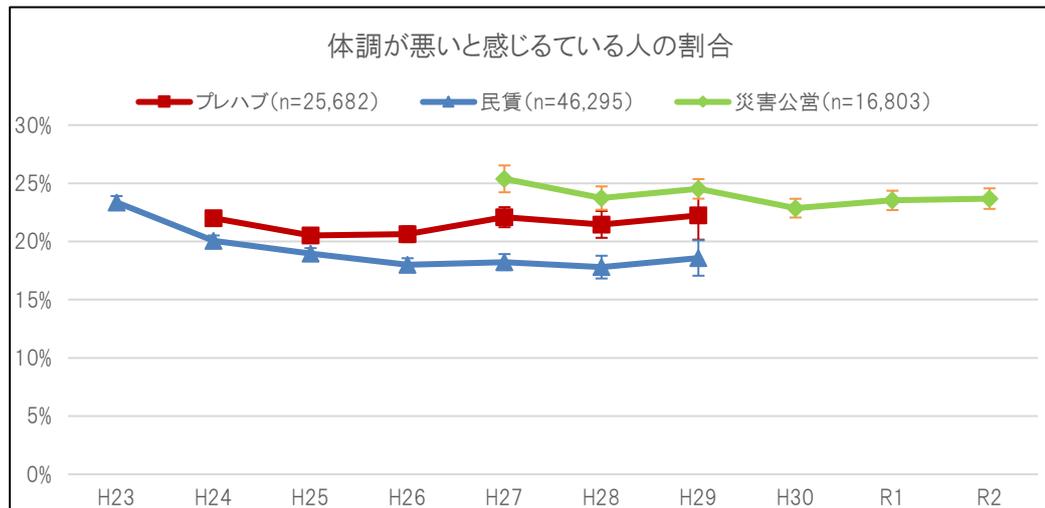
図表1-1 体調が悪いと感じている

調査年度	プレハブ (n=25,682)			民間賃貸 (n=46,295)			災害公営 (n=16,803)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.234	0.228	0.239			
H24	0.220	0.214	0.226	0.201	0.196	0.205			
H25	0.205	0.199	0.211	0.189	0.185	0.194			
H26	0.206	0.199	0.213	0.180	0.175	0.186			
H27	0.221	0.212	0.229	0.182	0.175	0.189	0.254	0.242	0.265
H28	0.215	0.203	0.226	0.178	0.168	0.188	0.237	0.227	0.247
H29	0.222	0.202	0.243	0.186	0.171	0.201	0.245	0.237	0.254
H30							0.229	0.221	0.237
R1							0.235	0.227	0.244
R2							0.237	0.228	0.246

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で該当する調査票の項目に回答をした人の値。図表1-1は調査票の5



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(2) K6が13点以上

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が9.6%，平成29年度は7.7%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は9.8%，平成29年度は6.2%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は8.4%，令和2年度は7.8%であった。
- ◎民間賃貸借上住宅等で減少傾向がみられた。

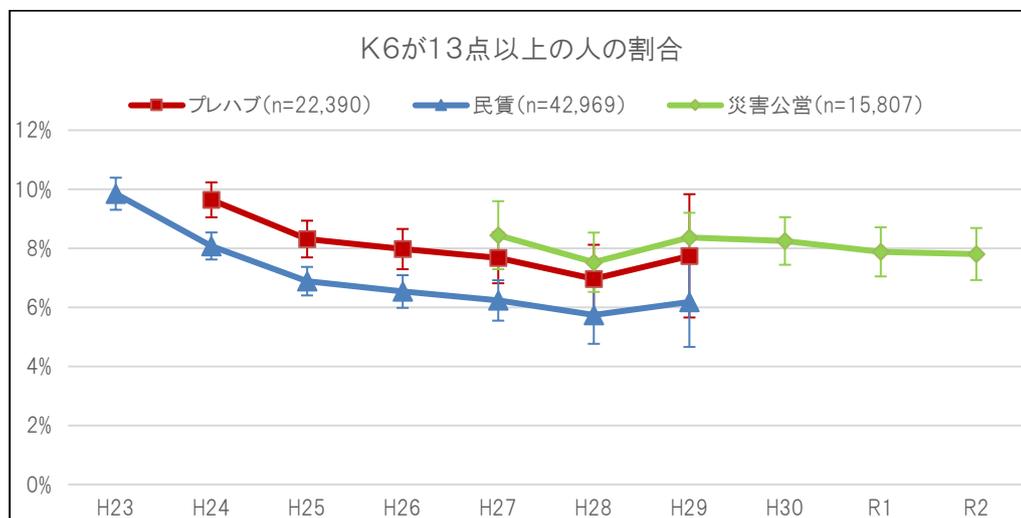
図表1-2 K6が13点以上

調査年度	プレハブ (n=22, 390)			民間賃貸 (n=42, 969)			災害公営 (n=15, 807)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.098	0.094	0.103			
H24	0.096	0.092	0.101	0.081	0.077	0.084			
H25	0.083	0.078	0.088	0.069	0.065	0.072			
H26	0.080	0.074	0.085	0.065	0.061	0.069			
H27	0.077	0.070	0.083	0.062	0.058	0.067	0.084	0.077	0.092
H28	0.070	0.061	0.078	0.057	0.051	0.064	0.075	0.068	0.082
H29	0.077	0.063	0.092	0.062	0.052	0.072	0.084	0.078	0.090
H30							0.082	0.077	0.088
R1							0.079	0.073	0.085
R2							0.078	0.072	0.084

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で該当する調査票の項目に回答をした人の値。図表1-2は調査票の7



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(3) 災害を思い出して気持ちが動揺することがある

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成25年度が22.4%、平成29年度は15.2%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成24年度は26.8%、平成29年度は14.5%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は18.5%、令和2年度は12.4%であった。
- ◎3つの住宅それぞれで減少傾向がみられた。

図表1-3

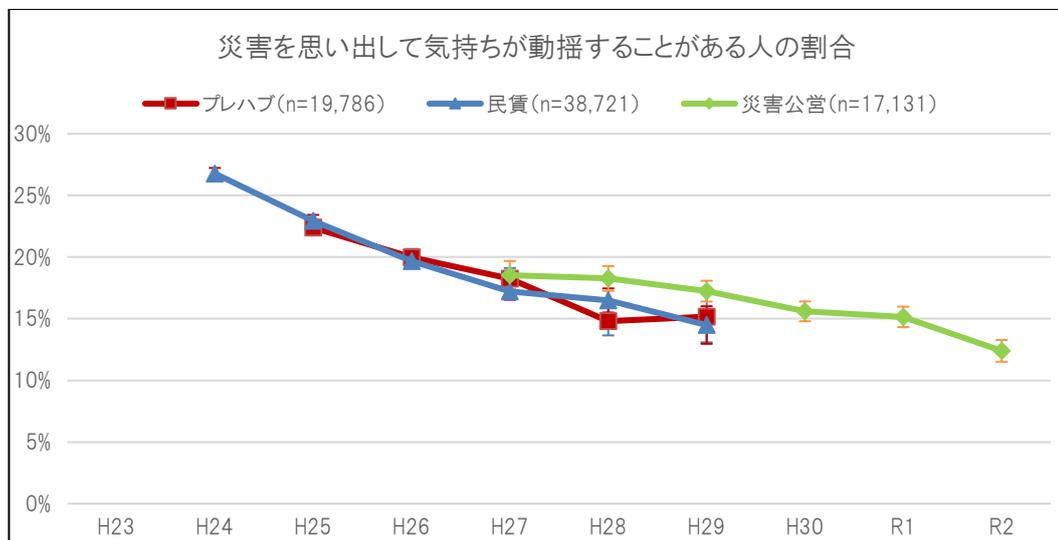
災害を思い出して気持ちが動揺することがある

調査年度	プレハブ (n=19,786)			民間賃貸 (n=38,721)			災害公営 (n=17,131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23									
H24				0.268	0.263	0.273			
H25	0.224	0.217	0.230	0.229	0.224	0.235			
H26	0.200	0.193	0.207	0.197	0.191	0.203			
H27	0.182	0.174	0.191	0.172	0.165	0.179	0.185	0.175	0.195
H28	0.148	0.137	0.159	0.165	0.155	0.175	0.183	0.173	0.192
H29	0.152	0.133	0.170	0.145	0.131	0.159	0.172	0.165	0.180
H30							0.156	0.149	0.163
R1							0.151	0.144	0.159
R2							0.124	0.117	0.131

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-3は調査票8の②



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(4) 不眠の状況

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が17.8%、平成29年度は15.8%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は18.8%、平成29年度は11.6%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は18.4%、令和2年度は16.5%であった。
- ◎民間賃貸借上住宅等、災害公営住宅で減少傾向がみられた。

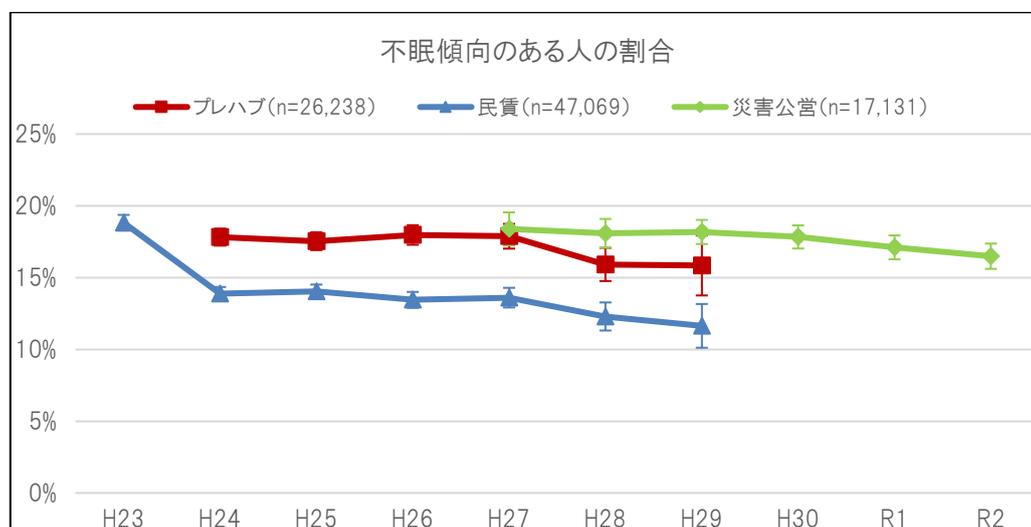
図表1-4 不眠

調査年度	プレハブ (n=26,238)			民間賃貸 (n=47,069)			災害公営 (n=17,131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.188	0.183	0.193			
H24	0.178	0.173	0.184	0.139	0.135	0.143			
H25	0.175	0.170	0.181	0.140	0.136	0.145			
H26	0.180	0.173	0.186	0.135	0.130	0.140			
H27	0.179	0.171	0.187	0.136	0.130	0.142	0.184	0.174	0.194
H28	0.159	0.149	0.169	0.123	0.114	0.131	0.181	0.172	0.190
H29	0.158	0.140	0.177	0.116	0.104	0.129	0.182	0.174	0.189
H30							0.178	0.171	0.186
R1							0.171	0.164	0.179
R2							0.165	0.157	0.173

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-4は調査票8の①



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(5) 飲酒の状況①（朝又は昼から飲酒をしている人）

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が2.2%，平成29年度2.0%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は1.4%，平成29年度は2.3%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は3.1%，令和2年度は2.4%であった。
- ◎プレハブ仮設住宅、災害公営住宅は横ばいであった。

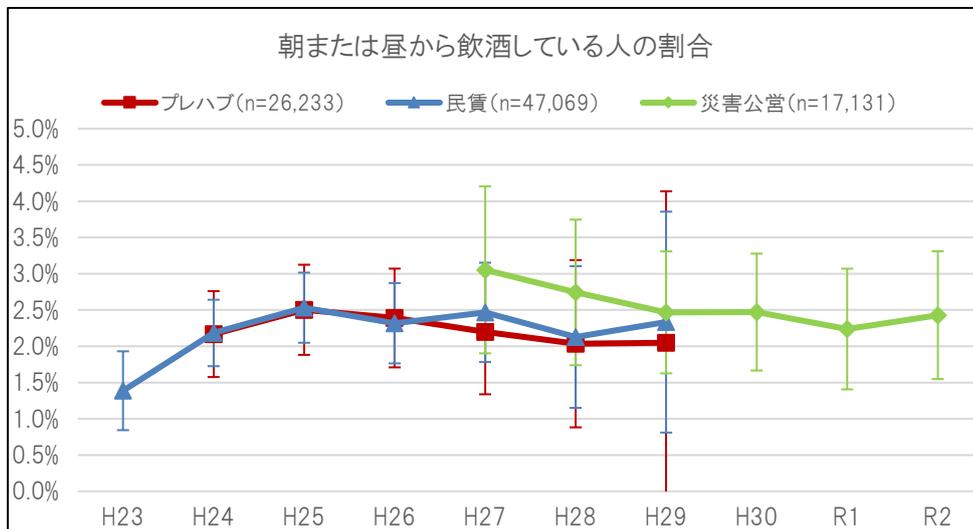
図表1-5 朝又は昼から飲酒することがある(朝昼飲酒)人の状況

調査年度	プレハブ (n=26, 233)			民間賃貸 (n=47, 069)			災害公営 (n=17, 131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.014	0.012	0.015			
H24	0.022	0.020	0.024	0.022	0.020	0.024			
H25	0.025	0.023	0.027	0.025	0.023	0.027			
H26	0.024	0.021	0.027	0.023	0.021	0.025			
H27	0.022	0.019	0.025	0.025	0.022	0.027	0.031	0.026	0.035
H28	0.020	0.016	0.025	0.021	0.017	0.025	0.027	0.024	0.031
H29	0.020	0.013	0.028	0.023	0.017	0.030	0.025	0.022	0.028
H30							0.025	0.022	0.028
R1							0.022	0.019	0.025
R2							0.024	0.021	0.028

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-5は調査票9の①



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(6) 飲酒状況②（週4日以上かつ1日3合以上飲酒をしている人）

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成26年度が8.4%、平成29年度が7.3%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成26年度は9.8%、平成29年度は8.6%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で平成27年度は9.0%、令和2年度は6.9%であった。
- ◎災害公営住宅で減少傾向がみられた。

図表1-6

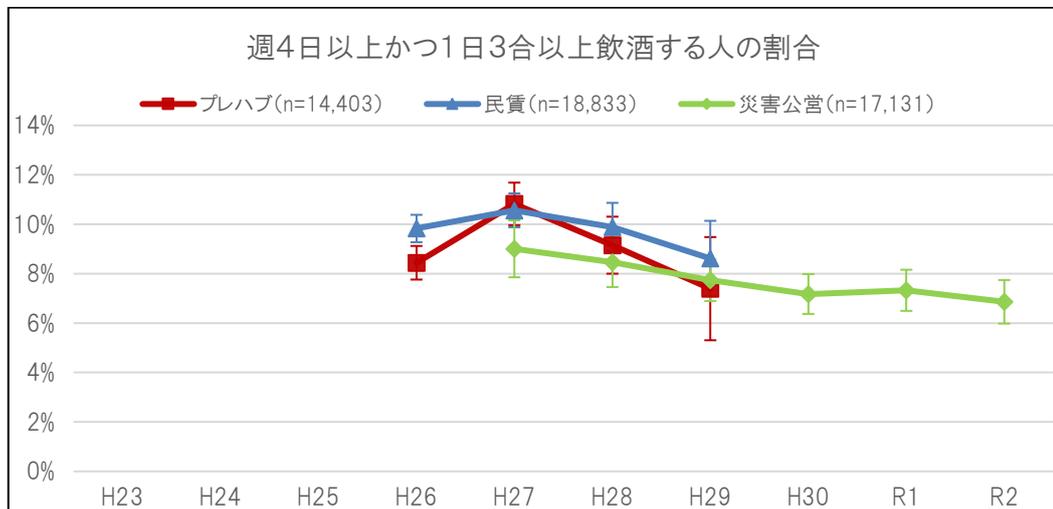
週4日以上かつ1日3合以上飲酒する(多量飲酒)人の状況

調査年度	プレハブ (n=14,403)			民間賃貸 (n=18,833)			災害公営 (n=17,131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23									
H24									
H25									
H26	0.0844	0.0796	0.0892	0.098	0.094	0.103			
H27	0.1082	0.1017	0.1148	0.106	0.100	0.111	0.090	0.083	0.097
H28	0.0915	0.0834	0.0997	0.099	0.091	0.107	0.085	0.078	0.091
H29	0.0739	0.0612	0.0867	0.086	0.075	0.097	0.077	0.072	0.082
H30							0.072	0.067	0.077
R1							0.073	0.068	0.078
R2							0.069	0.063	0.074

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-6は調査票9の②



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(7) 食欲の状況（食欲がない人）

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が3.9%、平成29年度は3.4%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は3.5%、平成29年度は2.5%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は4.3%、令和2年度は3.2%であった。
- ◎災害公営住宅で減少傾向がみられた。

図表1-7

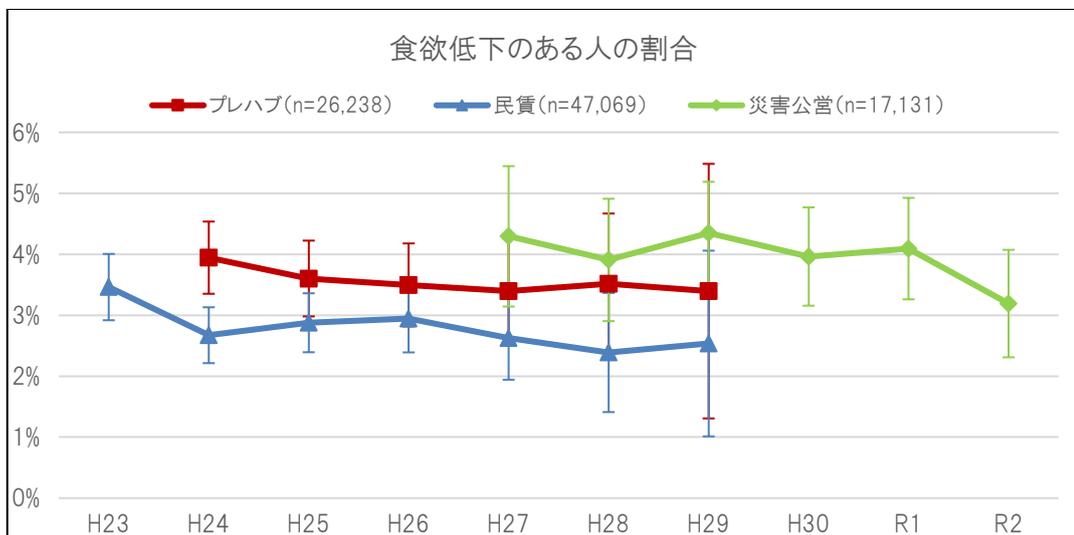
食欲がない

調査年度	プレハブ (n=26, 238)			民間賃貸 (n=47, 069)			災害公営 (n=17, 131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.035	0.032	0.037			
H24	0.039	0.037	0.042	0.027	0.025	0.029			
H25	0.036	0.033	0.039	0.029	0.027	0.031			
H26	0.035	0.032	0.038	0.029	0.027	0.032			
H27	0.034	0.030	0.038	0.026	0.023	0.029	0.043	0.037	0.049
H28	0.035	0.030	0.041	0.024	0.020	0.028	0.039	0.034	0.044
H29	0.034	0.025	0.043	0.025	0.019	0.032	0.043	0.039	0.048
H30							0.040	0.036	0.043
R1							0.041	0.037	0.045
R2							0.032	0.028	0.036

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-7は調査票8の③



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(8) 体重変化の状況①（1年前に比べて体重が増加した人）

- ・プレハブ仮設住宅入居者：平成24年度が22.1%，平成29年度は14.7%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者：平成24年度は17.2%，平成29年度は13.9%であった。
 - ・災害公営住宅入居者：平成27年度は19.3%，令和1年度は16.7%，令和2年度は18.0%であった。
- ◎プレハブ仮設住宅，民間賃貸借上住宅等で減少傾向がみられた。

図表1-8

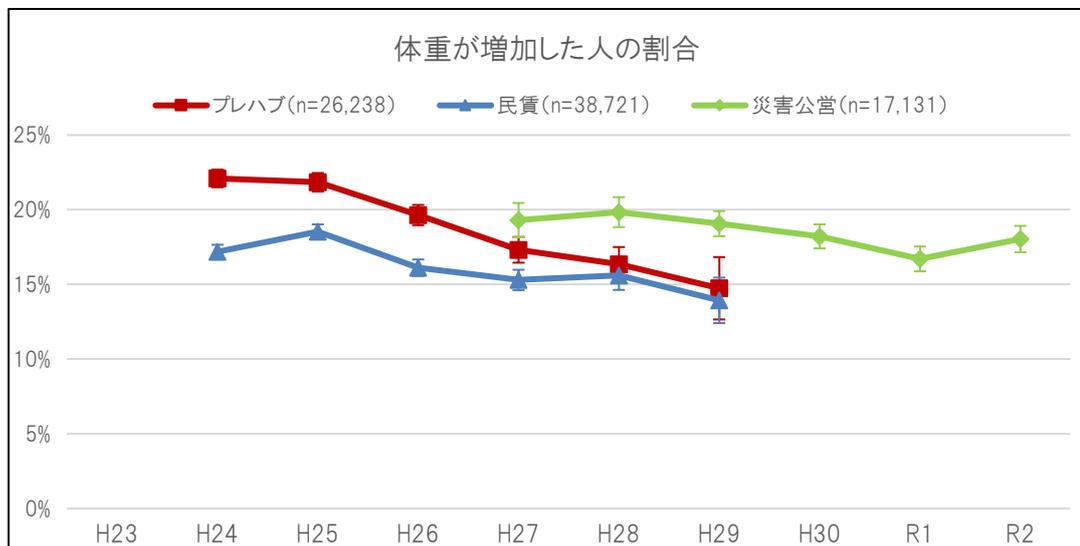
1年前に比べて体重が増加した

調査年度	プレハブ (n=26, 238)			民間賃貸 (n=38, 721)			災害公営 (n=17, 131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23									
H24	0.221	0.215	0.227	0.172	0.168	0.176			
H25	0.218	0.212	0.225	0.185	0.180	0.190			
H26	0.196	0.189	0.203	0.161	0.155	0.167			
H27	0.173	0.165	0.182	0.153	0.146	0.160	0.193	0.182	0.204
H28	0.164	0.152	0.175	0.156	0.145	0.167	0.198	0.188	0.209
H29	0.147	0.128	0.167	0.139	0.123	0.155	0.191	0.183	0.199
H30							0.182	0.174	0.190
R1							0.167	0.159	0.175
R2							0.180	0.172	0.189

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上，母集団の真の値が含まれることが，かなり確信できる数値範囲

※表中のnは，それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-8は調査票9の⑤



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し，上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(9) 体重変化の状況②（1年前に比べて体重が減少した人）

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が14.8%、平成29年度は10.0%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成24年度は10.8%、平成29年度は9.0%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は15.3%、令和2年度は12.0%であった。
- ◎3つの住宅それぞれで減少傾向がみられた。

図表1-9

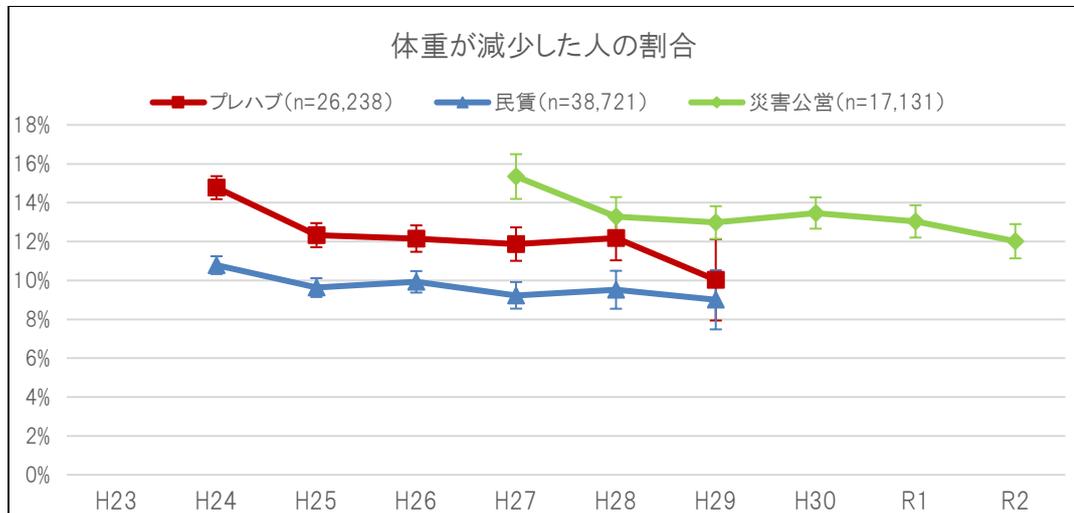
1年前に比べて体重が減少した

調査年度	プレハブ (n=26, 238)			民間賃貸 (n=38, 721)			災害公営 (n=17, 131)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23									
H24	0.148	0.143	0.153	0.108	0.104	0.112			
H25	0.123	0.118	0.128	0.096	0.093	0.100			
H26	0.122	0.116	0.127	0.099	0.095	0.104			
H27	0.119	0.111	0.126	0.092	0.087	0.098	0.153	0.143	0.164
H28	0.122	0.112	0.132	0.095	0.087	0.104	0.133	0.124	0.142
H29	0.100	0.083	0.117	0.090	0.078	0.103	0.130	0.123	0.137
H30							0.135	0.128	0.142
R1							0.130	0.123	0.137
R2							0.120	0.113	0.127

※推定値:対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間:統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-9は調査票9の④



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(10) 体を動かす機会の変化

※災害公営住宅入居者健康調査の項目で、調査開始当初の「震災前に比べて日頃の生活で体を動かす機会はどうなりましたか」から、平成28年度以降「現在の住宅への転居前に比べて、日常生活で体を動かす機会はどうなりましたか」に変更されている。

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が54.6%、平成29年度は45.9%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は49.8%、平成29年度は39.4%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は45.3%、平成28年度は39.4%、令和元年度は42.9%であった。
- ◎プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等で減少傾向がみられた。

図表1-10

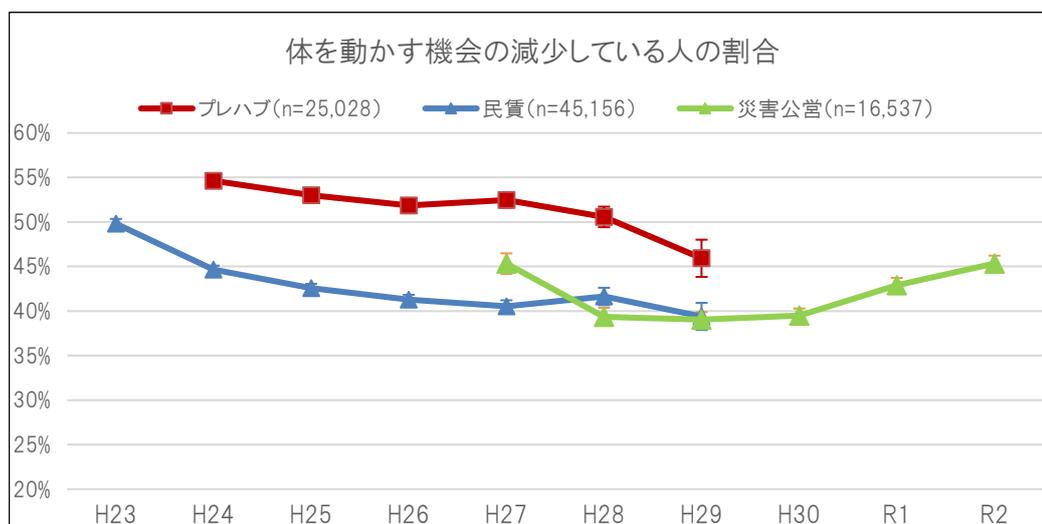
体を動かす機会の減少(とても少なくなった, 少なくなった)

調査年度	プレハブ (n=25,028)			民間賃貸 (n=45,156)			災害公営 (n=16,537)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.498	0.492	0.504			
H24	0.546	0.539	0.553	0.446	0.441	0.452			
H25	0.530	0.523	0.537	0.426	0.420	0.432			
H26	0.519	0.510	0.527	0.413	0.406	0.420			
H27	0.525	0.514	0.535	0.405	0.397	0.414	0.453	0.440	0.467
H28	0.506	0.491	0.520	0.416	0.404	0.429	0.394	0.382	0.406
H29	0.459	0.434	0.484	0.394	0.376	0.412	0.390	0.381	0.400
H30							0.395	0.385	0.404
R1							0.429	0.419	0.439
R2							0.453	0.443	0.464

※推定値:対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間:統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-10は調査票の10



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(11) 相談相手の有無（相談相手がいる）

- ・プレハブ仮設住宅入居者で、平成24年度が78.9%、平成29年度が80.3%であった。
- ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成23年度は78.7%、平成29年度は83.2%であった。
- ・災害公営住宅入居者で、平成27年度76.2%、令和元年度は77.8%であった。

◎民間賃貸借上住宅等で増加傾向がみられた。

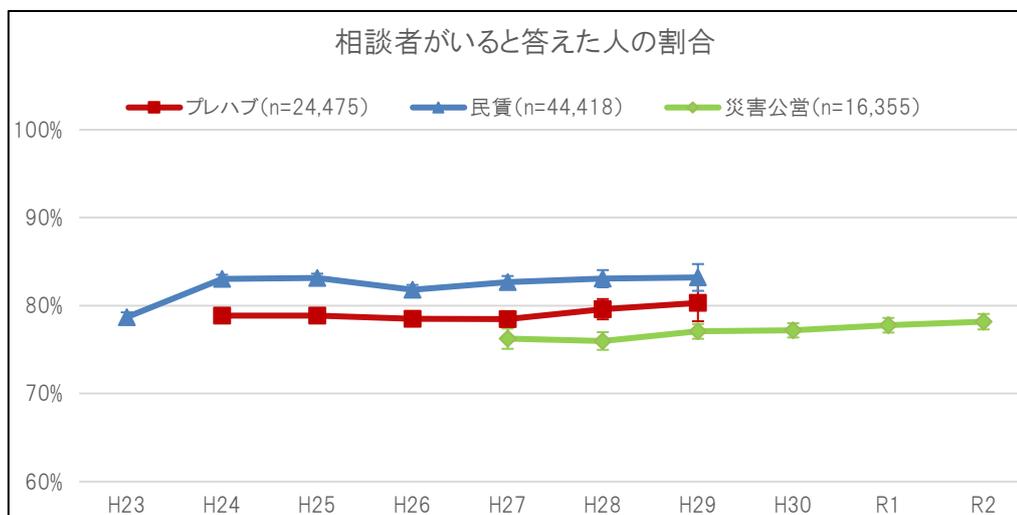
図表1-11 相談相手がいる

調査年度	プレハブ (n=24,475)			民間賃貸 (n=44,418)			災害公営 (n=16,355)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23				0.787	0.781	0.793			
H24	0.789	0.783	0.795	0.831	0.826	0.835			
H25	0.789	0.782	0.795	0.832	0.827	0.836			
H26	0.785	0.778	0.793	0.818	0.812	0.824			
H27	0.785	0.776	0.794	0.827	0.820	0.834	0.762	0.752	0.773
H28	0.796	0.784	0.808	0.831	0.821	0.841	0.760	0.750	0.770
H29	0.803	0.784	0.823	0.832	0.817	0.847	0.771	0.763	0.779
H30							0.772	0.764	0.780
R1							0.778	0.770	0.786
R2							0.782	0.773	0.790

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-11は調査票の12



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

(12) 行事への参加状況（行事に参加している人）

- ・プレハブ仮設入居者で、平成24年度が45.0%、平成29年度は33.4%であった。
 - ・民間賃貸借上住宅等入居者で、平成24年度は19.3%、平成29年度が16.8%であった。
 - ・災害公営住宅入居者で、平成27年度は39.5%、令和2年度は36.6%であった。
- ◎3つの住宅とも減少傾向がみられた。

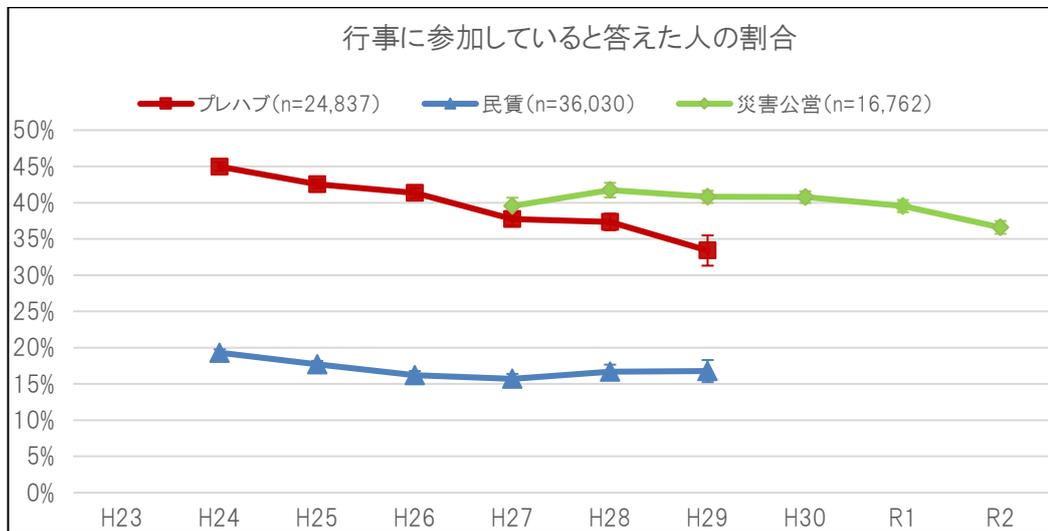
図表1-12 行事に参加している人

調査年度	プレハブ (n=24,837)			民間賃貸 (n=36,030)			災害公営 (n=16,762)		
	推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間		推定値	95% 信頼区間	
H23									
H24	0.450	0.443	0.457	0.193	0.188	0.198			
H25	0.426	0.418	0.433	0.177	0.172	0.182			
H26	0.413	0.406	0.421	0.162	0.157	0.167			
H27	0.377	0.368	0.387	0.157	0.151	0.163	0.395	0.383	0.408
H28	0.373	0.361	0.386	0.167	0.157	0.176	0.417	0.406	0.429
H29	0.334	0.312	0.356	0.168	0.154	0.181	0.408	0.399	0.417
H30							0.408	0.399	0.417
R1							0.395	0.386	0.405
R2							0.366	0.356	0.376

※推定値：対象集団全体の平均値を推定した値

※95%信頼区間：統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、それぞれの住宅で調査票の各健康状態を示す項目に回答をした人の値。図表1-12は調査票の11



折れ線グラフの各点はそれぞれの住宅における推定値を示し、上下のエラーバーが95%信頼区間を示しています。

第2節 転居による影響

1 分析の概要

(1) 目的

東日本大震災では、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等から災害公営住宅への転居など、転居を経験された方が多くおり、災害公営住宅への転居が被災者の健康状態に影響があったのかを把握する。

(2) 分析対象

平成23年度から令和2年度までの10年間、県の健康調査に回答した112,798世帯の240,358件（有効回答数）の調査結果データ

(3) 分析方法

年齢、性別、世帯人数、疾患の有無、無職かどうかの影響を排除し、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等入居者の経年的な健康状態の変化（転居前の経年的な健康状態の変化）と災害公営住宅入居者の経年的な健康状態の変化（転居後の経年的な健康状態の変化）について、転居前の1年あたりの変化率と転居後の1年あたりの変化率を比較し、転居の影響を分析したもの。

今回は健康状態を示す項目のうち、「体調が悪いと感じている人、K6が13点以上の人、相談相手がない人、行事への参加がない人」の4項目について分析を行った。

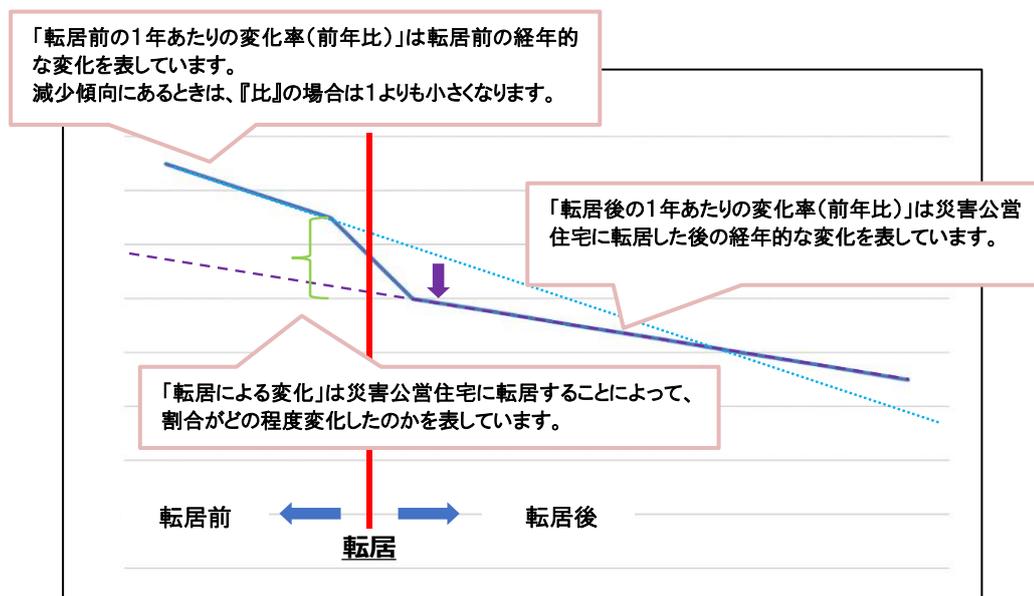
(4) 分析結果の要点

- ① 体調が悪いと感じている人の割合は、転居前の1年あたりの変化率（前年比）は 0.97 倍（ $p < 0.01$ ）、災害公営住宅への転居による有意な増減はなく（ $p > 0.01$ ）、転居後の1年あたりの変化率（前年比）は 0.98 倍（ $p < 0.01$ ）である。
- ② K6が13点以上の人割合は、転居前の1年あたりの変化率（前年比）は 0.91 倍（ $p < 0.01$ ）、災害公営住宅への転居による変化は 0.77 倍（ $p < 0.01$ ）、転居後の1年あたりの変化率（前年比）は 0.98 倍（ $p < 0.01$ ）である。
- ③ 相談相手がない人の割合は、転居前の1年あたりの変化率（前年比）は 0.98 倍（ $p < 0.01$ ）、災害公営住宅への転居による有意な増減はなく（ $p > 0.01$ ）、転居後の1年あたりの変化率（前年比）は 0.98 倍（ $p < 0.01$ ）である。
- ④ 行事への参加がない人の割合は、転居前の1年あたりの変化率（前年比）は 1.02 倍（ $p < 0.01$ ）、災害公営住宅への転居による変化は 0.85 倍（ $p < 0.01$ ）、転居後の1年あたりの変化率（前年比）は 1.01 倍（ $p < 0.01$ ）である。

(5) 考察

転居によって、K6が13点以上の人割合が、0.77 倍になるなど、災害公営住宅への転居が入居者の心の問題に関する健康状態にプラスに働いていると推測される。

【（イメージ図）「K6が13点以上の人」の転居前、転居後の1年あたりの変化率、転居による変化の推移】



2 分析結果

以下の(1)から(4)の項目は、プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等入居者の経年的な健康状態の変化(転居前の経年的な健康状態の変化)と災害公営住宅入居者の経年的な健康状態の変化(転居後の経年的な健康状態の変化)について、転居前の1年あたりの変化率と転居後の1年あたりの変化率を比較し、転居の影響を分析したものである。

(1) 「体調が悪いと感じている人」の割合 (n=77,411)

- ・転居前の1年あたり変化率(前年比)は、0.97 倍(p<0.01)であった。
- ・災害公営住宅への転居による有意な増減はなかった(p>0.01)。
- ・転居後の1年あたり変化率(前年比)は、0.98 倍(p<0.01)であった。

図表1-1 体調が悪いと感じている人

【「体調が悪いと感じている人」の表(変化の割合の比)】

入居先	存在率比	95%信頼区間		p 値
①転居前の1年あたりの変化率(前年比)	0.97	0.96	0.97	<0.01
②転居による変化(転居前と比べて)	1.00	0.94	1.07	0.929
③転居後の1年あたりの変化率(前年比)	0.98	0.97	0.99	<0.01

※存在率比:図表1-1の②転居による変化を例にとると、転居前の「体調が悪いと感じている人」の割合を1とすると、転居によって「体調が悪いと感じている人」の割合は転居前の1.00倍であることを表しています。値が1の場合は変化なし、<1の場合は減少、>1の場合は増加となります。

※上記存在率比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。

※※95%信頼区間:統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、該当する調査票の項目に回答した人の値。図表1-1は調査票の5

(2) 「K6が13点以上の人」の割合 (n=71,164)

- ・転居前の1年あたり変化率(前年比)は、0.91 倍(p<0.01)であった。
- ・災害公営住宅への転居による変化は、0.77 倍であった (p<0.01)。
- ・転居後の1年あたり変化率(前年比)は、0.98 倍(p<0.01)であった。

図表1-2 K6が13点以上の人

【「K6が13点以上の人」の表(変化の割合の比)】

入居先	オッズ比	95%信頼区間		p 値
①転居前の1年あたりの変化率(前年比)	0.91	0.89	0.92	<0.01
②転居による変化(転居前と比べて)	0.77	0.66	0.90	0.001
③転居後の1年あたりの変化率(前年比)	0.98	0.96	0.997	<0.01

※オッズ比:図表1-2の②転居による変化を例にとると、転居前の「K6が13点以上の人」の割合を1とすると、転居によって「K6が13点以上の人」の割合は転居前の0.77倍であることを表しています。値が1の場合は変化なし、<1の場合は減少、>1の場合は増加となります。

※上記オッズ比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。

※95%信頼区間:統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、該当する調査票の項目に回答した人の値。図表1-2は調査票の7

(3) 「相談相手がない人」の割合 (n=77,340)

- ・転居前の1年あたり変化率(前年比)は、0.98 倍(p<0.01)であった。
- ・災害公営住宅への転居による有意な増減はなかった(p>0.01)。
- ・転居後の1年あたり変化率(前年比)は、0.98 倍(p<0.01)であった。

図表1-3 相談相手がない人

【相談相手がない人の表(変化の割合の比)】

入居先	存在率比	95%信頼区間		p 値
①転居前の1年あたりの変化率(前年比)	0.98	0.97	0.98	<0.01
②転居による変化(転居前と比べて)	1.05	0.98	1.13	0.180
③転居後の1年あたりの変化率(前年比)	0.98	0.97	0.99	<0.01

※存在率比:図表1-3の②転居による変化を例にとると、転居前の「相談相手がない人」の割合を1とすると、転居によって「相談相手がない人」の割合は1.05倍であることを表しています。値が1の場合は変化なし、<1の場合は減少、>1の場合は増加となります。

※上記存在率比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。

※95%信頼区間:統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、該当する調査票の項目に回答をした人の値。図表1-3は調査票の12

(4) 「行事への参加がない人」の割合 (n=66,762)

- ・転居前の1年あたり変化率(前年比)は、1.02 倍(p<0.01)であった。
- ・災害公営住宅への転居による変化は、0.85 倍であった (p<0.01)。
- ・転居後の1年あたり変化率(前年比)は、1.01 倍(p<0.01)であった。

図表1-4 行事への参加がない人

【行事への参加がない人の表(変化の割合の比)】

入居先	存在率比	95%信頼区間		p 値
①転居前の1年あたりの変化率(前年比)	1.02	1.02	1.02	<0.01
②転居による変化(転居前と比べて)	0.85	0.82	0.85	<0.01
③転居後の1年あたりの変化率(前年比)	1.01	1.01	1.01	<0.01

※存在率比:図表1-4の②転居による変化を例にとると、転居前の「行事への参加がない人」の割合を1とすると、転居によって「行事への参加がない人」の割合は0.85倍であることを表しています。値が1の場合は変化なし、<1の場合は減少、>1の場合は増加となります。

※上記存在率比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。

※95%信頼区間:統計学上、母集団の真の値が含まれることが、かなり確信できる数値範囲

※表中のnは、該当する調査票の項目に回答をした人の値。図表1-4は調査票の11

第3節 健康状態に影響するリスク因子

1 分析の概要

(1) 目的

健康状態を示す項目と回答者の属性及びリスク因子との関連が大きい項目を把握するために分析を行った。

(2) 分析対象

平成23年度から令和2年度までの10年間、県の健康調査に回答をした、112,798世帯の240,358件(有効回答数)の調査結果データ

(3) 分析方法

健康調査の質問項目のうち、健康状態を示す項目と回答者の属性及びリスク因子との関連について、他の属性及びリスク因子が同じ状況でどれくらいリスクが大きくなるかを分析したもの。

今回、健康状態を示す項目のうち、「体調が悪いと感じている、K6が13点以上、不眠、心の動揺、食欲低下、体重増加、体重減少、朝昼飲酒、多量飲酒、体を動かす機会の減少」の10個の調査項目について、回答者の属性(調査年度、年齢、性別、世帯人数、職業)、リスク因子(相談相手、行事への参加、病気、震災前・転居前と比べた体を動かす機会、介護保険認定、障害者手帳)との関連性について分析を行った。

(4) 分析結果の要点

■ プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等、災害公営住宅で共通の結果

- ① 「年齢」で、40歳代は「朝又は昼から飲酒する(朝昼飲酒)」のオッズ比が2倍以上、30歳から79歳は「週4日以上かつ1日3合以上飲酒する(多量飲酒)」のオッズ比が2倍以上、70歳以上は「体を動かす機会の減少」の存在率比が2倍以上である。
- ② 「性別」で、男性は「朝昼飲酒、多量飲酒」のオッズ比が2倍以上である。
- ③ 「世帯人数」で、1人暮らしは「朝昼飲酒」のオッズ比が2倍以上である。
- ④ 「相談相手がない人」は、「K6が13点以上」のオッズ比が2倍以上である。
- ⑤ 「病気がある人」は、「体調が悪いと感じている、食欲低下」の存在率比及び「K6が13点以上」の存在率比が2倍以上である。
- ⑥ 「体を動かす機会が減少の人」は、「K6が13点以上」のオッズ比及び「食欲低下」の存在率比が2倍以上である。
- ⑦ 「介護保険認定がある人」は、「多量飲酒」のオッズ比が2倍以上である。

■ プレハブ仮設住宅、民間賃貸借上住宅等、災害公営住宅で異なる結果

- ① 「体調が悪いと感じている人」については、「年齢」はプレハブ仮設住宅と民間賃貸借上住宅等で40歳から49歳がやや多め。災害公営で40歳から59歳、80歳以上が多め。
- ② 「不眠」については、「年齢」はプレハブ仮設住宅と民間賃貸借上住宅等で特に40歳代以上で発現が高い。
- ③ 「心の動揺」については、「年齢」はプレハブ仮設住宅で30歳代以上、災害公営住宅では40歳代以上が発現しやすい傾向がある。また、「世帯人数」はプレハブ仮設住宅と災害公営住宅で2人以上の世帯で発現しにくい傾向がある。特に4人以上の世帯でより強い傾向にある。
- ④ 「体重減少」については、「世帯人数」はプレハブ仮設住宅と民間賃貸借上住宅等で4人以上の世帯でより発現しにくい。
- ⑤ 「多量飲酒」については、「相談相手がない人」は民間賃貸借上住宅等で発現が高めである。

(5) 考察

40歳代、50歳代の方、男性、1人暮らしの方は飲酒の項目と関連が強いため、訪問時の聞き取り等のポイントとすることで、飲酒問題の早期発見に繋がると考えられる。

健康状態に関連が大きい項目として、「相談相手」や「体を動かす機会の減少」が挙げられることから、相談できる人がいる環境づくりを進めることや、体を動かすきっかけとして住居から外に出て、行事参加の場や機会を提供するなどのソーシャルサポートの取組を進めることが大切である。これらにより、人との繋がりを得ることで、ストレスを予防したり緩和したりする効果が期待され、入居者の健康状態の維持・増進に繋がると考えられる。

2 分析結果

(1) 調査対象者全体(回答者の属性及びリスク因子ごとの詳細)

■ 調査年度【基準値:2011年を 1 とする】

※心の動揺, 体重増加, 体重減少は2012年度, 多量飲酒の調査項目は2014年度から開始となった。
「朝昼飲酒, 体を動かす機会の減少」以外の項目で調査年度が進むごとに, 発現が低い。

■ 年齢【基準値:20~29歳を 1 とする】

「K6が13点以上」のオッズ比は, 60歳代から80歳以上で発現が低い。
「体重減少」の存在率比は, 80歳代以上で 2.07 倍, 「朝昼飲酒」のオッズ比は, 40歳代で 2.10 倍, 50歳代で 2.28 倍, 「多量飲酒」のオッズ比は, 40歳代で 4.38 倍, 50歳代で 5.28 倍, 60歳代で 4.81 倍である。
「体を動かす機会の減少」の存在率比は, 70歳代で 2.10 倍, 80歳以上で 2.34 倍である。

■ 性別【基準値:男性を 1 とする】

女性の「心の動揺」の存在率比は 1.71 倍, 「K6が13点以上」のオッズ比は 1.58 倍, 「不眠」の存在率比は 1.39 倍である。男性の「朝昼飲酒」と「多量飲酒」のオッズ比は発現が高い。

■ 世帯人数【基準値:1人を 1 とする】

「K6が13点以上, 不眠, 食欲低下, 朝昼飲酒」のオッズ比及び存在率比は, 世帯人数が多くなるほど発現が低い。

■ 無職【基準値:職業ありを 1 とする】

無職の人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.53 倍, 「食欲低下」の存在率比は 1.40 倍, 「体を動かす機会の減少」の存在率比は 1.39 倍, 「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.28 倍である。

■ 相談相手【基準値:相談相手ありを 1 とする】

相談相手がいない人の「K6が13点以上」のオッズ比は 3.30 倍である。

■ 行事への参加【基準値:行事への参加ありを 1 とする】

行事に参加をしていない人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.62 倍, 「食欲低下」の存在率比は 1.42 倍, 「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.29 倍, 「朝昼飲酒」のオッズ比は 1.23 倍である。

■ 病気【基準値:病気がないを 1 とする】

病気がある人の「体調が悪いと感じている」の存在率比は 3.00 倍, 「K6が13点以上」のオッズ比は 2.61 倍である。

■ 体を動かす機会の増加【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする】

震災前・転居前に比べた体を動かす機会が増加した人の「体重減少」の存在率比は 1.68 倍, 「K6が13点以上」のオッズ比は 1.54 倍である。

■ 体を動かす機会の減少【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする】

震災前・転居前に比べた体を動かす機会が減少した人の「K6が13点以上」のオッズ比は 2.39 倍, 「食欲低下」の存在率比は 2.10 倍である。

■ 介護保険認定状況【基準値:介護保険認定なしを 1 とする】

介護保険の認定のある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.78 倍, 「食欲低下」の存在率比は 1.64 倍, 「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.48 倍である。また, 「朝昼飲酒・多量飲酒」で発現が低い。

■ 障害者手帳【基準値:障害者手帳なしを 1 とする】

障害者手帳がある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.44 倍である。また, 「朝昼飲酒, 多量飲酒」の発現が低い。

【調査対象者全体(「オッズ比及び存在率比が2倍以上」の項目に着目した結果)】

- ① 「年齢」で、40歳～59歳の「朝昼飲酒」のオッズ比及び30歳～79歳の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上、70歳以上で「体を動かす機会の減少」の存在率比は2倍以上である
- ② 「性別」で、男性の「朝昼飲酒、多量飲酒」のオッズ比は2倍以上である。
- ③ 「世帯人数」で、1人暮らしの「朝昼飲酒」のオッズ比は2倍以上である。
- ④ 「相談相手がない人」の「K6が13点以上」のオッズ比は2倍以上である。
- ⑤ 「病気がある人」の「体調が悪いと感じている、食欲低下、K6が13点以上」のオッズ比及び存在率比は2倍以上である。
- ⑥ 「体を動かす機会の減少した人」の「K6が13点以上、食欲低下」のオッズ比及び存在率比は2倍以上である。
- ⑦ 「介護保険認定がある人」の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上である。

健康状態を示す項目 回答者の属性及びリスク因子	体調が悪いと感じている	K6が13点以上	不眠	心の動揺	食欲低下	体重増加	体重減少	朝昼飲酒	多量飲酒	体を動かす機会の減少
	存在率比	オッズ比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	オッズ比	オッズ比	存在率比
調査年度	2011	1	1	1		1		1		1
	2012	0.88 **	0.89 *	0.68 **	1	0.70 **	1	1.41 **		0.93 **
	2013	0.84 **	0.75 **	0.65 **	0.82 **	0.66 **	0.99	0.83 **	1.51 **	0.90 **
	2014	0.81 **	0.69 **	0.65 **	0.73 **	0.64 **	0.90 **	0.84 **	1.38 **	1
	2015	0.85 **	0.66 **	0.64 **	0.64 **	0.60 **	0.82 **	0.82 **	1.38 **	1.17 **
	2016	0.82 **	0.59 **	0.59 **	0.59 **	0.57 **	0.82 **	0.78 **	1.23	1.03
	2017	0.84 **	0.66 **	0.60 **	0.57 **	0.61 **	0.80 **	0.72 **	1.13	0.91 *
	2018	0.79 **	0.67 **	0.60 **	0.52 **	0.57 **	0.77 **	0.74 **	1.11	0.87 **
	2019	0.78 **	0.58 **	0.57 **	0.49 **	0.58 **	0.70 **	0.74 **	1.08	0.87 **
	2020	0.77 **	0.58 **	0.54 **	0.39 **	0.43 **	0.72 **	0.66 **	1.07	0.79 **
年齢	20～29歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30～39歳	1.23 **	1.02	1.10 *	1.14 **	0.86 *	1.42 **	0.89 **	1.82 **	2.68 **
	40～49歳	1.34 **	0.98	1.28 **	1.26 **	0.82 *	1.51 **	1.05	2.10 **	4.38 **
	50～59歳	1.19 **	0.69 **	1.37 **	1.21 **	0.72 **	1.39 **	1.29 **	2.28 **	5.28 **
	60～69歳	1.04	0.49 **	1.36 **	1.14 **	0.67 **	1.29 **	1.42 **	1.88 **	4.81 **
	70～79歳	1.11 **	0.50 **	1.34 **	1.18 **	0.83 *	1.07 *	1.77 **	1.20	2.98 **
	80歳以上	1.15 **	0.51 **	1.23 **	1.17 **	0.93	0.70 **	2.07 **	0.79	1.26 *
性別	男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	女性	1.13 **	1.58 **	1.39 **	1.71 **	0.99	1.08 **	0.92 **	0.19 **	0.16 **
世帯人数	1人	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2人	1.00	0.84 **	0.79 **	0.94 **	0.71 **	0.86 **	0.89 **	0.49 **	0.88 **
	3人	0.98	0.76 **	0.72 **	0.89 **	0.65 **	0.80 **	0.83 **	0.41 **	0.83 **
	4人以上	0.94 **	0.71 **	0.65 **	0.81 **	0.60 **	0.74 **	0.74 **	0.37 **	0.89 *
職業	職業あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	無職	1.28 **	1.53 **	1.17 **	1.03	1.40 **	1.07 **	0.96	0.99	0.81 **
相談相手	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.54 **	3.30 **	1.54 **	1.27 **	1.86 **	1.07 **	1.32 **	1.70 **	1.13 **
行事への参加	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.29 **	1.62 **	1.11 **	1.00	1.42 **	0.91 **	1.09 **	1.23 **	1.01
病気	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	3.00 **	2.61 **	1.68 **	1.26 **	2.11 **	1.22 **	1.57 **	1.07	1.10 **
震災前・転居前と比べた体を動かす機会	変化なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	増加	1.18 **	1.54 **	1.19 **	1.21 **	1.33 **	1.08	1.68 **	1.22 **	0.95
	減少	1.68 **	2.39 **	1.57 **	1.46 **	2.10 **	1.71 **	1.36 **	1.29 **	1.06 *
介護保険認定	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.48 **	1.78 **	1.03	0.94 *	1.64 **	0.87 **	1.24 **	0.68 **	0.39 **
障害者手帳	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.16 **	1.44 **	1.08 **	1.05 *	1.20 **	0.99	1.15 **	0.69 **	0.60 **

※オッズ比及び存在率比:相談相手の有無を例にすると、「相談相手がいる」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率を1とした場合、「相談相手がない」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率が1.54倍であることを表している。

※上記オッズ比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。本表で、(**) p<0.01, (*) p<0.05と表記している。

※表内のオッズ比及び存在率比で、特に正の関連が強いもの(1.2倍以上)については黄色の網掛けをし、負の関連の強いもの(0.8倍以下)については青色の網掛けしている。

(2) プレハブ仮設住宅(回答者の属性及びリスク因子ごとの詳細)

■ 調査年度

【基準値:2012年度を 1 とする。ただし、心の動揺は2013年度、多量飲酒の調査項目は2014年度を 1 とする】
「心の動揺、体重増加、体重減少」の項目で調査年度が進むごとに、発現が低い。

■ 年齢【基準値:20~29歳を 1 とする】

「体重減少」の存在率比は、70歳代で 1.94 倍、80歳代以上で 2.16 倍、「朝昼飲酒」のオッズ比は、50歳代で 3.58 倍、60歳代で 2.89 倍、「多量飲酒」のオッズ比は、50歳代で 4.71 倍、60歳代で 4.52 倍である。

「体を動かす機会の減少」の存在率比は、70歳代で 2.12 倍、80歳以上で 2.31 倍ある。

■ 性別【基準値:男性を 1 とする】

女性の「心の動揺」の存在率比は 1.73 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 1.65 倍、「不眠」の存在率比は 1.47 倍である。男性は「朝昼飲酒、多量飲酒」で発現が高い。

■ 世帯人数【基準値:1人を 1 とする】

「K6が13点以上、不眠、食欲低下、朝昼飲酒」のオッズ比及び存在率比は、世帯人数が多くなるほど発現が低い。

■ 無職【基準値:職業ありを 1 とする】

無職の人の「K6が13点以上」の存在率比は 1.56 倍、「食欲低下」の存在率比は 1.36 倍、「体を動かす機会の減少」の存在率比は 1.35 倍、「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.31 倍である。

■ 相談相手【基準値:相談相手ありを 1 とする】

相談相手がいない人の「K6が13点以上」の存在率比は 3.38 倍である。

■ 行事への参加【基準値:行事への参加ありを 1 とする】

行事に参加をしていない人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.66 倍、「食欲低下」の存在率比は 1.49 倍、「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.34 倍、「朝昼飲酒」のオッズ比は 1.31 倍である。

■ 病気【基準値:病気がないを 1 とする】

病気がある人の「体調が悪いと感じている」の存在率比は 3.01 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 2.40 倍リスクである。

■ 体を動かす機会の増加【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする】

震災前・転居前に比べた体を動かす機会が増加した人の「体重減少」の存在率比は 1.71 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 1.58 倍である。

■ 体を動かす機会の減少【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする】

震災前・転居前に比べた体を動かす機会が減少した人の「K6が13点以上」のオッズ比は 2.32 倍、「食欲低下」の存在率比は 1.86 倍である。

■ 介護保険認定状況【基準値:介護保険認定なしを 1 とする】

介護保険の認定のある人の「食欲低下」の存在率比は 1.70 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 1.65 倍、「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.50 倍である。また、「多量飲酒」で発現が低い。

■ 障害者手帳【基準値:障害者手帳なしを 1 とする】

障害者手帳がある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.23 倍である。また、「朝昼飲酒、多量飲酒」で発現が低い。

【プレハブ仮設住宅(「オッズ比及び存在率比2倍以上」に着目した結果)】

- ① 「年齢」で、30歳～79歳の「朝昼飲酒」のオッズ比及び30歳以上の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上、70歳以上で「体を動かす機会の減少」の存在率比は2倍以上。
- ② 「性別」で、男性の「朝昼飲酒、多量飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ③ 「世帯人数」で、1人暮らしの「朝昼飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ④ 「相談相手がない人」の「K6が13点以上」のオッズ比は2倍以上。
- ⑤ 「病気がある人」の「体調が悪いと感じている、食欲低下、K6が13点以上」のオッズ比及び存在率比は2倍以上。
- ⑥ 「体を動かす機会が減少した人」の「K6が13点以上、食欲低下」のオッズ比及び存在率比が2倍以上。
- ⑦ 「介護保険認定がある人」は「多量飲酒」のリスクが2倍以上。

健康状態を示す項目 回答者の属性及びリスク因子	体調が悪いと感じている	K6が13点以上	不眠	心の動揺	食欲低下	体重増加	体重減少	朝昼飲酒	多量飲酒	体を動かす機会の減少	
	存在率比	オッズ比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	オッズ比	オッズ比	存在率比	
調査年度	2012	1	1	1		1	1	1		1	
	2013	0.94 **	0.84 **	0.94 **	1	0.85 **	0.94 **	0.79 **	1.07	0.97 **	
	2014	0.94 **	0.79 **	0.98	0.92 **	0.83 **	0.88 **	0.80 **	1.02	1	0.95 **
	2015	0.99	0.73 **	0.96	0.83 **	0.78 **	0.77 **	0.77 **	0.90	1.32 **	0.96 **
	2016	0.97	0.65 **	0.86 **	0.68 **	0.79 *	0.74 **	0.79 **	0.83	1.08	0.93 **
	2017	1.02	0.76 **	0.86 *	0.70 **	0.76	0.69 **	0.64 **	0.82	0.85	0.85 **
	2018	1.01	0.61	0.85	0.78	0.70	0.67	0.68		1.09	0.85
年齢	20～29歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	30～39歳	1.13	1.00	1.17 *	1.29 **	0.79	1.39 **	0.89	2.41 **	2.32 **	1.22 **
	40～49歳	1.27 **	1.08	1.34 **	1.53 **	0.64 **	1.46 **	1.05	2.50 **	3.37 **	1.36 **
	50～59歳	1.12	0.72 **	1.37 **	1.33 **	0.62 **	1.42 **	1.28 **	3.58 **	4.71 **	1.64 **
	60～69歳	1.01	0.55 **	1.41 **	1.25 **	0.61 **	1.28 **	1.46 **	2.89 **	4.52 **	1.81 **
	70～79歳	1.13	0.63 **	1.37 **	1.42 **	0.76 *	1.01	1.94 **	1.94 **	2.61 **	2.12 **
	80歳以上	1.10	0.61 **	1.19 *	1.39 **	0.78	0.62 **	2.16 **	1.06	0.96	2.31 **
性別	男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	女性	1.13 **	1.65 **	1.47 **	1.73 **	1.01	1.16 **	0.92 **	0.14 **	0.11 **	1.23 **
世帯人数	1人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2人	0.99	0.77 **	0.77 **	0.92 **	0.66 **	0.86 **	0.85 **	0.47 **	0.85 *	1.01
	3人	0.98	0.76 **	0.72 **	0.86 **	0.55 **	0.84 **	0.81 **	0.42 **	0.74 **	0.99
	4人以上	0.92 **	0.64 **	0.65 **	0.77 **	0.53 **	0.77 **	0.71 **	0.37 **	1.00	0.98
職業	職業あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	無職	1.31 **	1.56 **	1.18 **	0.98	1.36 **	1.11 **	0.93	1.10	0.75 **	1.35 **
相談相手	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	なし	1.56 **	3.38 **	1.60 **	1.29 **	1.93 **	1.05 *	1.29 **	1.63 **	1.03	1.14 **
行事への参加	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	なし	1.34 **	1.66 **	1.13 **	0.98	1.49 **	0.89 **	1.12 **	1.31 **	0.98	1.03 **
病気	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	あり	3.01 **	2.40 **	1.56 **	1.31 **	2.00 **	1.19 **	1.45 **	0.99	1.02	1.21 **
震災前・転居前と比べた体を動かす機会	変化なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	増加	1.23 **	1.58 **	1.20 **	1.26 **	1.50 **	1.04	1.71 **	1.36 **	0.89	
	減少	1.76 **	2.32 **	1.57 **	1.51 **	1.86 **	1.69 **	1.27 **	1.25 **	1.06	
介護保険認定	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	あり	1.50 **	1.65 **	1.06 *	0.95	1.70 **	0.92	1.26 **	0.85	0.38 **	1.12 **
障害者手帳	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	あり	1.13 **	1.23 **	1.09 *	1.05	1.09	0.99	1.10 *	0.64 **	0.66 **	1.05 **

※オッズ比及び存在率比: 相談相手の有無を例にすると、「相談相手がいる」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率を1とした場合、「相談相手がない」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率が1.56倍であることを表している。

※上記オッズ比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。本表で、(**) p<0.01, (*) p<0.05と表記している。

※表内のオッズ比及び存在率比で、特に正の関連が強いもの(1.2倍以上)については黄色の網掛けをし、負の関連の強いもの(0.8倍以下)については青色の網掛けしている。

(3) 民間賃貸借上住宅等(回答者の属性及びリスク因子ごとの詳細)

- 調査年度【基準値:2011年を 1 とするただし、心の動揺は2012年度、多量飲酒の調査項目は2014年度を 1 とする。】

「体調が悪いと感じている、心の動揺」の項目で調査年度が進むごとに、発現が低い。
- 年齢【基準値:20~29歳を 1 とする】

「K6が13点以上」のオッズ比は50歳代から80歳以上で発現が低い。「食欲低下」の存在率比は50歳代から70歳代で発現が低い。「朝昼飲酒」のオッズ比は40歳以上で 2.07 倍である。
「体重減少」の存在率比は80歳代以上で 1.94 倍、「多量飲酒」のオッズ比は40歳代で 4.79 倍、50歳代で 5.28 倍、60歳代で 4.81 倍である。
「体を動かす機会の減少」の存在率比は70歳代で 2.13 倍、80歳以上で 2.38 倍である。
- 性別【基準値:男性を 1 とする】

女性の「心の動揺」の存在率比は 1.72 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 1.60 倍、「不眠」の存在率比は 1.37 倍である。男性の「朝昼飲酒、多量飲酒」で発現が高い。
- 世帯人数【基準値:1人を 1 とする】

「K6が13点以上、不眠、食欲低下、体重増加、体重減少、朝昼飲酒」のオッズ比及び存在率比は、世帯人数が多くなるほど発現が低い。
- 無職【基準値:職業ありを 1 とする】

無職の人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.46 倍、「体を動かす機会の減少」の存在率比は 1.39 倍、「食欲低下」の存在率比は 1.36 倍、「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.24 倍である。また、「多量飲酒」で発現が低い。
- 相談相手【基準値:相談相手ありを 1 とする】

相談相手がいない人の「K6が13点以上」のオッズ比は 3.54 倍である。
- 行事への参加【基準値:行事への参加ありを 1 とする】

行事に参加をしていない人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.52 倍、「食欲低下」の存在率比は 1.35 倍、「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.32 倍、「朝昼飲酒」のオッズ比は 1.26 倍である。
- 病気【基準値:病気がないを 1 とする()】

病気がある人の「体調が悪いと感じている」の存在率比は 3.06 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 2.72 倍である。
- 体を動かす機会の増加【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする(オッズ比)】

震災前・転居前に比べた体を動かす機会が増加した人の「体重減少」の存在率比は 1.85 倍、「K6が13点以上」のオッズ比は 1.62 倍である。
- 体を動かす機会の減少【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする(オッズ比)】

震災前・転居前に比べた体を動かす機会が減少した人の「K6が13点以上」のオッズ比は 2.72 倍、「食欲低下」のオッズ比は 2.35 倍である。
- 介護保険認定状況【基準値:介護保険認定なしを 1 とする(オッズ比)】

介護認定がある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 2.02 倍、「食欲低下」の存在率比は 1.79 倍、「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.49 倍である。また、「朝昼飲酒・多量飲酒」で発現が低い。
- 障害者手帳【基準値:障害者手帳なしを 1 とする(オッズ比)】

障害者手帳がある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.47 倍である。また、「多量飲酒」で発現が低い。

【民間賃貸借上住宅等(「オッズ比及び存在率比2倍以上」に着目した結果)】

- ① 「年齢」で、40歳代の「朝昼飲酒」のオッズ比、30歳～79歳の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上、70歳以上で「体を動かす機会の減少」の存在率比は2倍以上。
- ② 「性別」で、男性の「朝昼飲酒、多量飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ③ 「世帯人数」で、1人暮らしの「朝昼飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ④ 「相談相手がない人」の「K6が13点以上」のオッズ比は2倍以上。
- ⑤ 「病気がある人」は「体調が悪いと感じている、食欲低下、K6が13点以上」のオッズ比及び存在率比は2倍以上。
- ⑥ 「体を動かす機会が減少した人」の「K6が13点以上、食欲低下」のオッズ比存在率比は2倍以上。
- ⑦ 「介護保険認定がある人」の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ⑧ 「障害者手帳がある人」の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上。

健康状態を示す項目 回答者の属性及びリスク因子	体調が悪いと感じている	K6が13点以上	不眠	心の動揺	食欲低下	体重増加	体重減少	朝昼飲酒	多量飲酒	体を動かす機会の減少
	存在率比	オッズ比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	オッズ比	オッズ比	存在率比
調査年度	2011	1	1	1		1		1		1
	2012	0.90 ***	0.89	0.74 ***	1	0.68 ***	1	1.51 ***		0.98
	2013	0.87 **	0.76 **	0.73 **	0.83 **	0.70 **	1.06 **	0.86 **	1.66 **	0.95 **
	2014	0.82 **	0.69 **	0.70 **	0.73 **	0.70 **	0.94 **	0.89 **	1.48 **	1
	2015	0.85 **	0.67 **	0.72 **	0.65 **	0.64 **	0.90 **	0.84 **	1.56 **	1.09 *
	2016	0.82 **	0.61 **	0.64 **	0.61 **	0.56 **	0.90 **	0.85 **	1.31	0.99
	2017	0.85 **	0.65 **	0.61 **	0.54 **	0.60 **	0.83 **	0.80 **	1.51 *	0.85 *
	2018	0.76 *	0.79	0.73 *	0.43 **	0.81	0.78	0.77 *	1.55	0.80
年齢	20～29歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30～39歳	1.26 **	1.03	1.11 *	1.11 **	0.87	1.44 **	0.90	1.77 **	2.84 **
	40～49歳	1.38 **	0.98	1.30 **	1.20 **	0.97	1.55 **	1.05	2.07 **	4.79 **
	50～59歳	1.16 **	0.63 **	1.35 **	1.17 **	0.73 **	1.37 **	1.34 **	1.93 **	5.28 **
	60～69歳	0.98	0.46 **	1.35 **	1.09 *	0.62 **	1.26 **	1.42 **	1.59 **	4.81 **
	70～79歳	1.04	0.48 **	1.35 **	1.12 **	0.74 **	1.08	1.69 **	0.80	2.45 **
	80歳以上	1.09 *	0.45 **	1.22 **	1.01	0.88	0.70 **	1.94 **	0.53 **	0.98
性別	男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	女性	1.16 **	1.60 **	1.37 **	1.72 **	1.01	1.02	0.94 **	0.23 **	0.19 **
世帯人数	1人	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2人	1.02	0.87 **	0.81 **	0.98	0.75 **	0.87 **	0.91 **	0.52 **	0.87 *
	3人	1.00	0.75 **	0.71 **	0.93 **	0.71 **	0.79 **	0.84 **	0.42 **	0.81 **
	4人以上	0.94 **	0.73 **	0.65 **	0.85 **	0.61 **	0.73 **	0.74 **	0.37 **	0.85 *
職業	職業あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	無職	1.24 **	1.46 **	1.18 **	1.05 *	1.36 **	1.02	0.98	0.97	0.78 **
相談相手	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.62 **	3.54 **	1.56 **	1.30 **	2.04 **	0.98	1.39 **	1.87 **	1.24 **
行事への参加	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.32 **	1.52 **	1.16 **	1.12 **	1.35 **	0.98	1.07 *	1.26 **	1.00
病気	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	3.06 **	2.72 **	1.77 **	1.24 **	2.11 **	1.23 **	1.65 **	1.15 *	1.29 **
震災前・転居前と比べた体を動かす機会	変化なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	増加	1.30 **	1.62 **	1.24 **	1.19 **	1.39 **	1.11 **	1.85 **	1.06	0.94
	減少	1.76 **	2.72 **	1.75 **	1.52 **	2.35 **	1.99 **	1.46 **	1.36 **	1.16 **
介護保険認定	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	1.49 **	2.02 **	0.99	0.90 **	1.79 **	0.80 **	1.23 **	0.57 *	0.41 **
障害者手帳	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	1.20 **	1.47 **	1.03	1.03	1.15	0.94	1.12 *	0.72 *	0.43 **

※オッズ比及び存在率比:相談相手の有無を例にすると、「相談相手がいる」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率を1とした場合、「相談相手がない」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率が1.62倍であることを表している。

※上記オッズ比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。本表で、(**) p<0.01, (*) p<0.05と表記している。

※表内のオッズ比及び存在率比で、特に正の関連が強いもの(1.2倍以上)については黄色の網掛けをし、負の関連の強いもの(0.8倍以下)については青色の網掛けしている。

(4) 災害公営住宅(回答者の属性及びリスク因子ごとの詳細)

- 調査年度【基準値:2015年を 1 とする】
「心の動揺, 体重減少, 多量飲酒」の項目で調査年度が進むごとに, 発現が低い。
- 年齢【基準値:20~29歳を 1 とする】
「K6が13点以上」のオッズ比は, 50歳代~80歳以上で発現が低い。「体重減少」の存在率比は, 80歳代以上で 2.06 倍である。「朝昼飲酒」のオッズ比は, 40歳代で 2.31 倍, 50歳代で 2.79 倍, 60歳代で 2.30 倍, 「多量飲酒」のオッズ比は, 50歳代 5.93 倍, 60歳代で 5.69 倍である。
「体を動かす機会の減少」の存在率比は, 70歳代 2.09 倍, 80歳以上で 2.39 倍である。
- 性別【基準値:男性を 1 とする】
女性の「心の動揺」の存在率比は 1.62 倍, 「K6が13点以上」のオッズ比は 1.36 倍, 「不眠」の存在率比は 1.32 倍である。男性は「朝昼飲酒, 多量飲酒」で発現が高い。
- 世帯人数【基準値:1人を 1 とする】
「K6が13点以上, 不眠, 体重増加, 朝昼飲酒」では, 世帯人数が多くなるほど発現が低い。
- 無職【基準値:職業ありを 1 とする】
無職の人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.77 倍。「食欲低下」の存在率比は 1.69 倍。「体を動かす機会の減少」の存在率比は 1.46 倍。「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.40 倍である。
- 相談相手【基準値:相談相手ありを 1 とする】
相談相手がいない人の「K6が13点以上」のオッズ比 3.23 倍である。
- 行事への参加【基準値:行事への参加ありを 1 とする】
行事に参加をしていない人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.78 倍。「食欲低下」の存在率比は 1.46 倍。「体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.28 倍。「朝昼飲酒」のオッズ比は 1.26 倍である。
- 病気【基準値:「病気がない」を1とする】
病気がある人の「体調が悪いと感じている」の存在率比は 3.09 倍。「K6が13点以上」のオッズ比は 3.06 倍である。
- 体を動かす機会の増加【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする】
震災前・転居前に比べた体を動かす機会が増加した人の「体重減少」の存在率比は 1.49 倍。「K6が13点以上」のオッズ比は 1.48 倍である。
- 体を動かす機会の減少【基準値:震災前・転居前に比べた体を動かす機会(変化なし)を 1 とする】
震災前・転居前に比べた体を動かす機会が減少した人の「K6が13点以上」のオッズ比は 2.20 倍。「食欲低下」の存在率比は 2.12 倍である。
- 介護保険認定状況【基準値:介護保険認定なしを 1 とする】
介護保険の認定のある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.76 倍。「食欲低下及び体調が悪いと感じている」の存在率比は 1.49 倍である。また, 「朝昼飲酒・多量飲酒」で発現が低い。
- 障害者手帳【基準値:障害者手帳なしを 1 とする】
障害者手帳がある人の「K6が13点以上」のオッズ比は 1.52 倍である。また, 「朝昼飲酒, 多量飲酒」で発現が低い。

【災害公営住宅(「オッズ比及び存在率比2倍以上」に着目した結果)】

- ① 「年齢」で、40歳～69歳の「朝昼飲酒」のオッズ比、30歳～79歳の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上、70歳以上の「体を動かす機会の減少」の存在率比は2倍以上。
- ② 「性別」で、男性の「朝昼飲酒、多量飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ③ 「世帯人数」で、1人暮らしの「朝昼飲酒」のオッズ比は2倍以上。
- ④ 「相談相手がない人」の「K6が13点以上」のオッズ比は2倍以上。
- ⑤ 「病気がある人」の「体調が悪いと感じている、K6が13点以上、食欲低下」のオッズ比及び存在率比が2倍以上。
- ⑥ 「体を動かす機会が減少した人」の「K6が13点以上、食欲低下」のオッズ比及び存在率比は2倍以上。
- ⑦ 「介護保険認定がある人」の「多量飲酒」のオッズ比は2倍以上。

健康状態を示す項目 回答者の属性及びリスク因子		体調が悪いと感じている	K6が13点以上	不眠	心の動揺	食欲低下	体重増加	体重減少	朝昼飲酒	多量飲酒	体を動かす機会の減少
		存在率比	オッズ比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	存在率比	オッズ比	オッズ比	存在率比
調査年度	2015	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2016	0.95	0.89	0.99	1.00	0.95	1.04	0.87 **	0.88	0.93	0.87 **
	2017	0.98	1.03	1.00	0.94 *	1.04	1.00	0.84 **	0.77 **	0.84 **	0.86 **
	2018	0.91 **	1.01	0.98	0.85 **	0.95	0.95	0.88 **	0.77 **	0.76 **	0.88 **
	2019	0.92 **	0.91	0.93 *	0.82 **	0.95	0.86 **	0.84 **	0.69 **	0.78 **	0.95 **
	2020	0.91 **	0.89	0.88 **	0.66 **	0.70 **	0.92 *	0.77 **	0.74 **	0.72 **	1.00
年齢	20～29歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30～39歳	1.36 **	0.99	0.99	1.20	0.97	1.41 **	0.85	1.65	2.68 **	0.98
	40～49歳	1.53 **	0.77	1.07	1.54 **	0.81	1.43 **	0.95	2.31 **	4.95 **	1.09
	50～59歳	1.60 **	0.65 **	1.22 *	1.54 **	1.01	1.34 **	1.17	2.79 **	5.93 **	1.33 **
	60～69歳	1.37 **	0.34 **	1.12	1.40 **	1.01	1.29 **	1.35 **	2.30 **	5.69 **	1.69 **
	70～79歳	1.40 **	0.31 **	1.14	1.42 **	1.31	1.18 *	1.68 **	1.70	3.56 **	2.09 **
80歳以上	1.49 **	0.37 **	1.08	1.58 **	1.45	0.80 **	2.06 **	1.15	1.60 *	2.39 **	
性別	男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	女性	1.06 **	1.36 **	1.32 **	1.62 **	0.94	1.10 **	0.88 **	0.16 **	0.17 **	1.10 **
世帯人数	1人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2人	1.01	0.78 **	0.77 **	0.90 **	0.73 **	0.85 **	0.90 **	0.51 **	0.90	1.05 **
	3人	1.05	0.73 **	0.72 **	0.86 **	0.70 **	0.79 **	0.87 **	0.39 **	0.83 *	1.00
	4人以上	1.01	0.71 **	0.64 **	0.73 **	0.80	0.64 **	0.86 **	0.40 **	0.84	0.95
職業	職業あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	無職	1.40 **	1.77 **	1.22 **	1.08 *	1.69 **	1.09 *	1.03	0.85	0.78 **	1.46 **
相談相手	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.48 **	3.23 **	1.55 **	1.29 **	1.56 **	1.02	1.29 **	1.49 **	1.11	1.26 **
行事への参加	あり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	なし	1.28 **	1.78 **	1.10 **	0.97	1.46 **	0.90 **	1.07 *	1.26 **	1.04	1.13 **
病気	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	3.09 **	3.06 **	1.76 **	1.31 **	2.55 **	1.29 **	1.64 **	1.02	1.05	1.34 **
震災前・転居前と比べた体を動かす機会	変化なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	増加	1.04	1.48 **	1.13 **	1.20 **	1.07	1.07	1.49 **	1.35 **	0.99	
	減少	1.57 **	2.20 **	1.45 **	1.41 **	2.12 **	1.37 **	1.37 **	1.30 **	1.02	
介護保険認定	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	1.49 **	1.76 **	1.02	1.04	1.49 **	0.87 **	1.24 **	0.66 *	0.36 **	1.24 **
障害者手帳	なし	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	あり	1.15 **	1.52 **	1.11 *	1.08	1.36 **	1.05	1.20 **	0.75 *	0.66 **	1.07 **

※オッズ比及び存在率比:相談相手の有無を例にすると、「相談相手がいる」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率を1とした場合、「相談相手がない」と回答した人の「体調が悪いと感じている人」の出現率が1.48倍であることを表している。

※上記オッズ比のp値が0.01未満の場合、偶然による結果の可能性は低いと判断されます。本表で、(**) p<0.01, (*) p<0.05と表記している。

※表内のオッズ比及び存在率比で、特に正の関連が強いもの(1.2倍以上)については黄色の網掛けをし、負の関連の強いもの(0.8倍以下)については青色の網掛けしている。